【研究発表】

「未来への結び目をつくる　～ワークショップ型図書館研修の試み～」

長野県野沢南高等学校　学校司書　朝倉久美

１．はじめに

本大会のテーマである「豊かな学びを支える図書館 ～よりよい未来の創造に向けて～」は、人々の生涯にわたる“学びの接続”を意識し、人生のあらゆるステージに寄り添うプラットフォームとしての図書館像を思い描いたものである。学校図書館と公共図書館が館種を越えて目的を共有し、理解を深め合うべく、分科会を学校種別ではなくテーマ横断型とした主な理由もそこにある。とはいえ、大会で参加できるコンテンツには限りがあり、参加者属性によってコミュニティが分断されがちなことは否めない。

そこで全体会では、公共図書館と学校図書館の職員が同じテーブルで学び合う研修事例について報告する。本大会の開催地である長野県佐久地域で継続的に行われている図書館職員研修（図書館協会佐久支部研修および佐久市小中学校司書研修）を題材に、参加者同士で意見を交わし合う機会としたい。

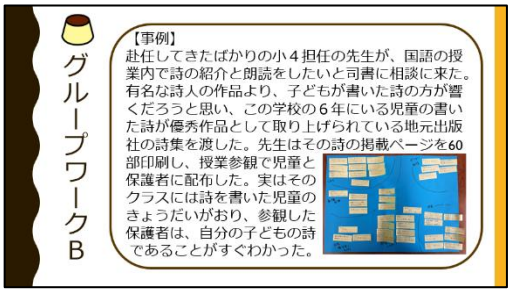
２．「体験」を通して「実感」ある学びを

人はいつも学びの途中にある。学校教育・家庭教育・社会教育の結び目としての機能を持つのが図書館であり、学校図書館と公共図書館が知のリレーを行うことで、あらゆる層の利用者の未来を思い描くことができる。そのために必要なのが、図書館関係職員（司書教諭含む教員、司書、行政職員、学校長、公共図書館長など）がそれぞれの立場の強みを活かし、相互理解を深めることであろう。

先述した研修設計を請け負うにあたり、主催者との対話を重ねる中で、受講者同士が試行錯誤し、自身の体験を児童生徒に還元できるような場づくりを行うことが最善であると考えた。また、図書館活用支援者としての専門性を高めるにつれ、職員自身もまた学習者であるという意識が薄れがちになるという課題も浮き彫りになった。そこで、県立長野県図書館の児童リテラシープログラムと高校における探究学習支援を編み直し、図書館に関わる方々の好奇心を刺激するようなワークショップの開発を試みた。近年実施した研修内容を振り返り、将来的な学びを支える図書館連携のあり方について再考する。

図書館協会研修

小中学校司書研修



高校探究ガイダンス